2010 年 9 月 30 日発行

点訳通信

68 号

情報文化センター　点字製作係

〒550-0002　大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028（点字製作直通）
TEL 06-6441-0015(代表)　FAX 06-6441-0095

ついこの間まで，暑くてフーフー言っていたのに，気がつけば秋の気配。今年の日本は，夏の後にいきなり冬が来るのではないかと言われていますが，紅葉が見られないのはつまらないですね。秋が来てくれることを祈るばかりです。やっぱり日本には，四季がなくちゃ！

私の紅葉狩りの行きつけ（？）は箕面なのですが，去年，初めて『紅葉のてんぷら』とやらを食べました。いやぁ，いろんな名物があるのですねぇ。まさか紅葉を揚げてしまうとは‥‥‥。

日帰りできる穴場の紅葉スポット募集中の（久）

【目次】

◆ 2010 年度 専門点訳講習会『触知コース』が終了！・・・・・・・・・2
◆ 『手で実感する美術展』：私の鑑賞ノート・・・・・・・・・・・・・4
◆ 『点訳のてびき 第３版Q&A 第２集』発売・・・・・・・・・・・・・5
◆ 点字図書１巻あたりのページ数について・・・・・・・・・・・・・・・6
◆ 点訳していただく図書の原本について・・・・・・・・・・・・・・・・6

2010年度 専門点訳講習会『触知コース』が終了！

７月８日～９月16日に，全６回で，毎日新聞社主催の専門点訳講習会『触知コース』が開催されました。講師は点字製作係の小原二三夫職員が努め，点字製作係のボランティアの方にもお手伝いをしていただきました。今回は，多くの方からお申し込みをいただき，受講生は総勢21名。外の猛暑も何のその，熱気に溢れた，楽しく有意義な講習会となりました。

創る！触る！実践で実感

この講習会は，「触る」ことについて考えることを目的に進められました。また，受講生が，それぞれ「触る」ことをテーマにした作品を作り，最終日に発表しあうというユニークな内容も盛り込まれており，受講生の皆さまからは，何を作ろうかと悩みつつも，楽しそうにアイディアを練っている様子が伝わってきました。

机から溢れんばかりの力作の数々！

それでは，講習会でアシスタントをしてくださった方からの感想をご紹介します。

「触知コース」で知ったこと　　高橋（たかはし） 世貴子（せきこ）

「触知コース」に参加して，小原さんの名講義に聞き入りました。前夜遅くまで韓流ドラマを見ていて寝不足のはずなのに，全く睡魔に襲われませんでした。美しくまとめられたレジュメが，講義内容を理解する助けとなりました。「触知コース」で知ったこと･･･それは私自身の未熟さです。その具体例を１回目と５回目の講義から見てみます。

〔第１回：講習会の趣旨，「触って分かることと分からないこと」〕

袋に手を入れて，入っている物を探りました。受講生の皆さんからは，形（うすい・丸い）ばかりでなく，感触（つるつる・かたい），重い・軽い等，視覚では捉えられない感想も挙げられました。私は手にあたる感触に意識が向かず，「これは何か」ばかりを意識していました。視覚に頼っている日常から脱却できず，手で触れているにもかかわらず，目に

見える形を追い求めていた自分に気付きました。

触った感想を述べるときは，自分の感じたことしか言葉にできません。まさに，感性が問われます。自分の人となりをさらけ出す怖さがあります。

〔第５回：言葉による説明〕

フェーン現象の図とグラフ（風上側の山麓から山頂を越えて風下側の山麓に向かう空気の流れの図と，その時の空気の温度と高度との関係を示したグラフ（小原さんのレジュメから引用））の概要を書くよう求められました。

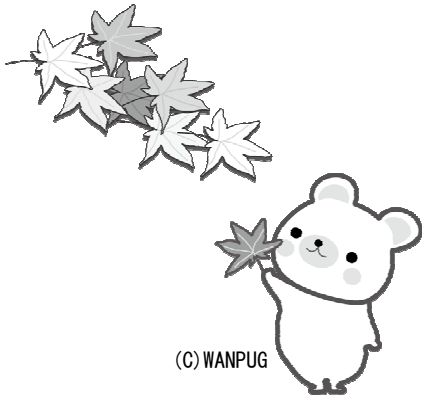
「新聞のリード文的な文」→「キーワードを核にして，可能な限り贅肉をそぎ落とした文」→「ＳがＯをＶすることを示す図（グラフ）」という表現に近づけよう･･･と考えました。

ところが後で，「山の麓」「山の頂上」には「山麓」「山頂」という簡潔な熟語があると気付きました。漢語を自由自在に使いこなせていません。時間が制約された状況では，日常会話で使用するレベルの語彙しか浮かんできません。私が語彙力に乏しいことを知りました。

点訳で問われるのは ″what I am″ です。よい点訳をするには，自分の感性を磨くことが大切です。「触知コース」は，年金生活にどっぷり浸った静かで平凡な生活にキラ星のような心地よい刺激を投げかけてくれました。この刺激を，今後の点訳活動に反映させて行きたいと思います。

「触知コース」で受けた心地よい刺激を，拙歌に詠んでみました。

講習会 平凡なわが日常に 知恵のさざ波誘(いざな)ひくるる



『手で実感する美術展』：私の鑑賞ノート

点字製作係職員　小原二三夫（おばらふみお）

８月８日から 11 日まで，情報文化センターで「手で実感する美術展」が開催されました。この美術展は，神戸に本店のあるジュエリー貴樹の矢野茂樹・貴美子夫妻が中心になって，ルーブル美術館に展示されているような世界の名品を見えない人たちも触って鑑賞できるように，場を提供しようと活動を始めている「KAGUYA PROJECT TEAM」が主催するものです。ジュエリー貴樹所蔵の貴重な瑪瑙のカメオをはじめ，石の彫刻品や極めて精巧なアルミ製の能面のレプリカなど約 20 点が展示されていました。

石の彫刻品はしばしば触れられる機会はありますが，カメオは普通はせいぜい大きくても４，５センチくらいで，手触りはきれいですが，小さくて何が表現されているのかは触っては分かりません。今回展示された瑪瑙のカメオは，10 数 cm から 20cm センチくらいもある大きなもので，細かい所までシャープに浮彫りされていましたし，とくにお椀状に大きく窪んだ内側の曲面に浮彫りされたカメオはかなり立体的に表現されていました。私は，とりわけギリシア・ローマ神話や聖書などの物語を題材にした絵画的な作品たちに魅せられ，スタッフの解説を聞きながら何度も繰り返し触りました。以下に，瑪瑙の作品 ２点についてだけですが，私がどんな風に触って鑑賞できたか記してみます。

●アダムとイブ

旧約聖書の『創世記』の有名なアダムとイブの物語を表しています。

右側にイブ，左側にアダムが立ち，その二人の間，奥のほうに太い木が画面の下から上までいっぱいに描かれています。木の上の方は枝葉が広がり，さらにその枝葉に一部隠れるように蛇も描かれています。

イブは左手を高く上げ，指先が枝に付いた ２個のりんごに触れています。その枝には蛇の頭が伸びてきています。

またイブは右手にりんごを持ち，木の前で，アダムの左手にりんごを渡そうとしているようです。アダムはやや膝を曲げて立ち，左を向いてイブのほうを見ているようです。アダムの脚などは太く，また凹凸も大きく描かれているので，逞しさを感じます。

よく聞き知っている，蛇に誘惑されて食べてしまうという禁断の木の実の場面ですが，話で聞くよりはずっとリアルにイメージできました。

●マヤ

スペインの画家フランシスコ・ゴヤの有名な「裸のマヤ」をアレンジした作品だとのことです。

これは板状の小さめのカメオで，ちょっと触っただけではよく分からないのですが，私は解説を聞きながら丁寧に触って，この絵の良さが少し分かったような気になりました。

裸の女性が，左肘を突いて上半身を起こしかけた状態で，両脚を伸ばして横たわっています。右手もその脚に沿って伸ばし，手の先には花のようなものを持っています。裸婦の肌はつるつるしていて，触ってとてもきれいに感じます。

裸婦の奥，画面左から中央にかけて，多数の細い線でカーテンの襞が描かれています。左端のほうの襞はほぼ真っ直ぐな縦線ですが，右に行くとともに次第に各襞が大きく右側に湾曲し，その曲り具合の変化から，カーテンが風に吹かれてなびいているだろうことが触っても想像できます。

裸婦の手前には，いくつかクッションのようなのもあり，絵全体としては，おだやかな，ゆったりした雰囲気を感じました。

その他にも，バッカスやビーナスなど，丁寧に触って鑑賞しました。これらはいずれも，多くの人たちがごくふつうに見知っているような場面・テーマなのでしょうが，私はそれを今回触って鑑賞することができました。瑪瑙など石の作品は，細かい所までは分からなくても触っているだけで心地好いですが，私にとってはこれらの作品はとても良い美術教材にもなりました。矢野さんたちの今後の活動に大いに期待しています。

(C) WANPUG

『点訳のてびき 第３版 Q&A 第２集』発売

この秋，新たな質問項目が盛り込まれた『点訳のてびき 第３版 Q&A 第２集』（発行：大活字¥1,050-）が発売されました。点字製作係で閲覧していただくこともできる他，当センター5 階のエンジョイ！グッズサロンでも販売しています。関心をお持ちの方は，ぜひご覧ください。

なお，当センターが採用している点字表記規則と異なる内容も掲載されていますので，ご利用の際は，その点にご注意ください。

点字図書１巻あたりのページ数について

当センターでは，皆さまに点訳していただいた点字図書を，リング綴に製本して読者に貸し出しています。皆さまには，ページが薄すぎたり，逆に厚みが出すぎたりしないように巻割りを調整していただいていますが，およその目安として，**両面書き（18 行）では 160 ページを，片面書き（22 行）では 80 ページを最大**としてください。これは，表紙，目次，奥付などを含めたページ数です。

ただし，内容の区切りとしてやむを得ず目安のページ数を越してしまう場合もあると思いますので，その際は職員にご相談ください。

点訳していただく図書の原本について

今年度４月から，当センターの点字図書製作の方向性が少し変わり，それに伴って，ボランティアの皆さんに点訳していただく原本の選び方も変わりつつあります。

これまでは，本棚に並んでいる図書の中から自由に選んでいただいていましたが，今は，次の図書を手がけていただけるようになった時に，職員に直接声をかけていただくようにお願いしています。

本棚に図書が並んでいないのをご覧になって，「もう点訳するものはないのだろうか…」と衝撃を受けられているという声も耳にしますが，けっして，「点訳するものがない」わけではありません。

前号でも少し書かせていただきましたが，読者にとって読みたい本を，なるべく早く，正確に届けるにはどうすればいいのかを見当した結果，１ 冊の本を着実に手がけてみようということになり，職員と相談しながら点訳図書を選んでいただく方法へと切り替えさせていただいています。ですので，次の本が必要になった時には，いつでも職員にお声がけください。その場で皆さんに次の本をお選びいただけます。

ご協力の程，よろしくお願いいたします。

お詫び：前号でご紹介した新人ボランティアの尾崎清子さんのお名前のふりがなが間違っておりました。正しくは，尾崎清子（おざきせいこ）さんです。誠に申し訳ございませんでした。お詫びして訂正いたします。